

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

天壇（てんだん、簡体字中国語: 天坛、拼音: Tiāntán、満州語: ᠠᠪᡴᠠᡳ Ꭵᠨᠳᡠ ᝢᠤᡴ᠋ᡧ᠋ᡠ、転写: abkai enduri mukdehun^[1]）

は、中華人民共和国北京市東城区に位置する史跡で、明朝から清朝にかけて、皇帝が天に対して祭祀（祭天）を行った宗教的な施設（祭壇）である。敷地面積は約273ha。1998年よりユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録された。

概要

明の永楽18年（1420年）、永楽帝が建立したとされる。建設当時は天地壇と呼ばれていたが、嘉靖13年（1534年）、天壇と地壇に分離、天壇と呼ばれるようになった。

中華民国（台湾）の台南市にも天壇が存在する。そちらについては中国語版臺灣首廟天壇を参照。

圜丘壇(muheliyen muhun)^[2]

皇帝が天を祭るための儀式を執り行う場所である。毎年冬至に豊作を祈る儀式を行い、雨が少ない年は雨乞いを行った。

形は天円地方の宇宙觀に則り円形である。また欄干や階段などが陰陽思想でいう最大の陽数である9や、その倍数で構成されている。各壇の直径を合計すると45丈であり、これは単に9の倍数という意味だけでなく、九五之尊^[3]という意味も持つ。

天壇では後述する祈年殿が有名であるが、本来的な意味では圜丘殿こそが最も重要な場所である。

皇穹宇(abkai han i ordo)^[2]

皇室の皇に、大空を表す穹と、宇宙の宇という字を書く。圜丘で祭事が行なわれる時、壇の上に置かれる天の神や、歴代の皇帝の位牌をふだん安置しておく所である。

祈年殿(aniya baire deyen)^[2]

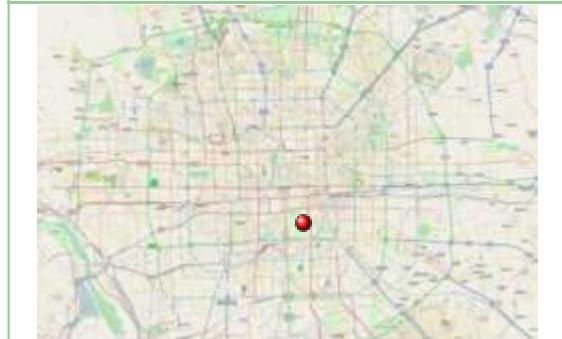
世界遺産 天壇 (中華人民共和国)



天壇祈年殿

英名	Temple of Heaven: an Imperial Sacrificial Altar in Beijing
仮名	Temple du Ciel, autel sacrificiel impérial à Beijing
登録区分	文化遺産
登録基準	(1), (2), (3)
登録年	1998年
公式サイト	世界遺産センター (https://whc.unesco.org/en/list/881/) (英語)

地図



天壇でもっとも有名とされる建造物の一つで、天安門や紫禁城とともに北京のシンボル的存在とされる。祈年殿では皇帝が正月の上辛五穀豊穣を祈りを捧げた。祈年殿は直径32m、高さ38m、25本の柱に支えられる祭壇で現存する中国最大の祭壇。中国建築史上重要な建造物とされる。木造で宝頂は金メッキがなされている。屋根は瑠璃瓦葺きの三層になっており、明の時代には上から青・黄・緑となっていたが1751年にすべて青色に変えられた。1899年落雷により焼失したが、1896年に再建されている。



圜丘壇



皇穹宇



祈年殿の内部

●北京市街の地図を表示

○北京の地図を表示

○華北平原の地図を表示

○全て見る

[使用方法・表示](#)



天壇

各種表記

繁体字 : 天壇

簡体字 : 天坛

拼音 : Tiāntán

注音符号 : ㄊㄧㄢㄊㄢˊ

発音 : ティエンタン



東側から見た皇穹宇



3つの建物



南側から見た祈年殿

登録基準

この世界遺産は世界遺産登録基準のうち、以下の条件を満たし、登録された（以下の基準は世界遺産センター公表の登録基準 (<https://whc.unesco.org/en/criteria>)からの翻訳、引用である）。

- (1) 人類の創造的才能を表現する傑作。
- (2) ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
- (3) 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。

関連項目

- 圓丘壇（1897年にソウルに作られたもの）
- 皇帝祭祀
- 地壇
- 月壇
- 天壇東門駅
- 天帝、天命、天子、天下
- 天人相関説

脚注

1. ^ 『欽定新清語』
2. ^ a b c 『衙署名目』
3. ^ 『易經』の「乾卦」に由来する言葉であり、「飛竜天に在り」いわゆる天子を表す。

〔<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=天壇&oldid=85170483>〕から取得